

平成16年度 宮崎市歯科健康ドック結果報告

○櫛山実寿 佐伯健治 河野 優 日高良雄 金丸恭子 田原幸恵 近藤泰子 岡 篤子 田村里美 (宮崎市保健所)

要旨

平成16年度より宮崎市歯科健康ドックを行い、その結果をまとめた。宮崎市の成人歯科の現状把握とともに考察を行った。

I はじめに

歯周疾患は中高年齢層に発症する疾患といわれているが、実際には、比較的若年齢層から発症することが認められており、50歳代では50%を越す有病者率が、また、歯の喪失も40歳代を境として急増することが報告されている。

この度本市では、老人保健法による総合健康診査に位置づけられた「歯周疾患検診」を平成16年度より実施し、歯周病に関するデータをまとめ、厚生省「平成11年歯科疾患実態調査結果」と比較し、本市の成人歯科保健の問題点やその対策についてまとめたのでここに報告する。

II 研究方法

1 分析対象

平成16年度に40歳、50歳、60歳、70歳を迎えた宮崎市民15,052人の中で、期間中(40歳と50歳:平成16年7月~平成17年2月、60歳と70歳:平成16年10月~平成17年2月)に宮崎市歯科健康ドックを受診した646人を対象とする。

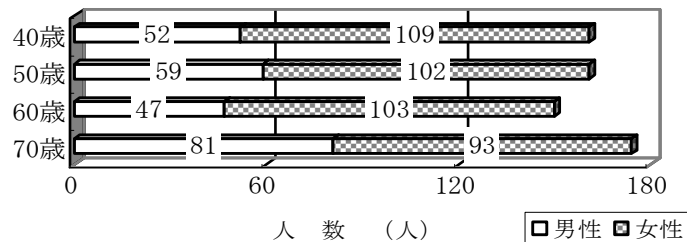
2 分析方法

「CPI個人コード(※)」と「唾液検査(潜血反応)」について、X・2乗検定で有意差を判定した。

(※) 0~4の数値で示され、2以下は「歯周病に罹患していない」3以上は「歯周病に罹患している」と判定される。

III 研究結果

1 受診者の分布



年齢別受診者数にあまり差はなかった。また40歳、50歳、60歳は女性が多く受診したことが分かる。

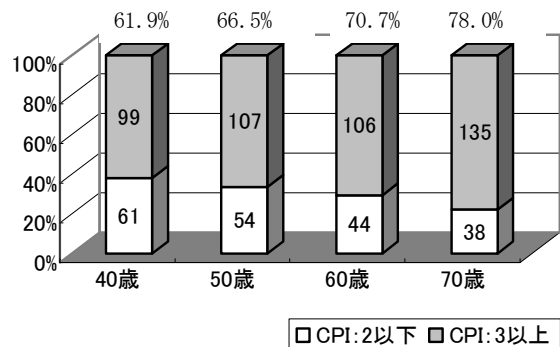
2 CPI個人コード(最大値)の状況

(棒グラフの上の百分率:CPI個人コードが3以上の割合)

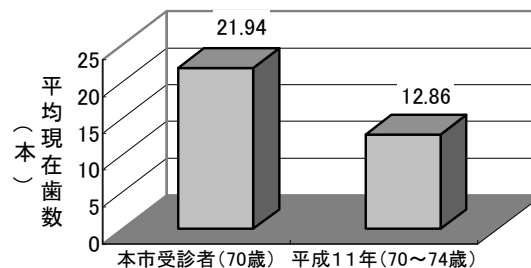
歯周病罹患の目安であるCPI個人コードが3以上の割合は加齢とともに高くなった。40~60歳の歯周病罹患率の増加傾向は、厚生省「平成11年歯科疾患実態調査の概要」と類似していた。

<参考> 厚生省「平成11年歯科疾患実態調査の概要」におけるCPI個人コードが3以上の割合

3	1.5%	(35~44歳)	834人
4	3.5%	(45~54歳)	970人
5	0.0%	(55~64歳)	1,122人
4	5.5%	(65~74歳)	1,171人



本市受診者（70歳）と厚生省「平成11年歯科疾患実態調査の概要」（70～74歳）の現在歯数を比べると、対象者の抽出方法や対象者数などに相違はあるが、本市受診者（70歳）の現在歯数は約9本多かった。そのため、残存している歯が歯周病に罹患した状態で口腔内に残っていることが本市受診者（70歳）の歯周病罹患率を高めた一因と考えられる。

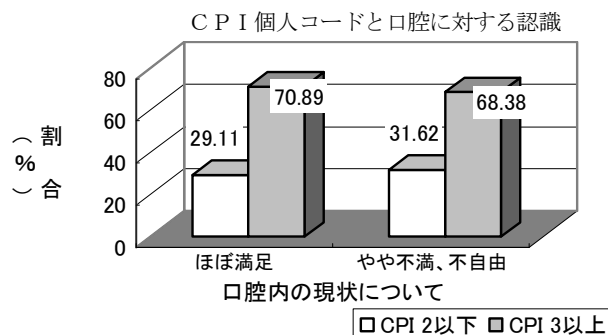


### 3 CPI個人コードと口腔に対する認識

口腔内の現状に満足している人とやや不満や不自由を感じている人の間でCPI個人コードを比較したところ、ほとんど差がなかった。

( $\chi^2$ 乗検定 有意差なし)

このことから、本人の自覚症状と歯周病罹患状況の間には関連が見られず、自覚症状がないまま歯周病が進行する要因になっていると考えられる。

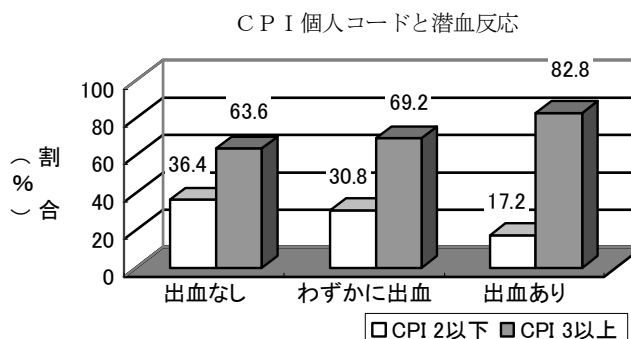


### 4 CPI個人コードと唾液検査（潜血反応）

唾液中の潜血量の増加に伴い、CPI個人コード3以上である割合も増加する結果を得た。

( $\chi^2$ 乗検定 P=0.004)

唾液中の潜血は歯周病進行を疑わせる兆候の1つであり、潜血量が多い人は歯周ポケットが深く歯周病に罹患していることを裏付ける結果となった。



## IV 考察

宮崎市歯科健康ドックの結果を厚生省「平成11年歯科疾患実態調査」の結果と比較すると、歯周病の罹患率が高い結果を得た。本市対象者は歯科医院を受診した人であり、厚生省「平成11年歯科疾患実態調査」の無作為抽出とは異なるが、本市受診者は残存歯数が多く、それらが歯周病に罹患した状態で残存していることが一因として挙げられる。このことは、CPI個人コードと口腔に対する認識との結果からも、歯周病に罹患しているにも関わらず疼痛などの自覚症状が生じない場合があることが示唆された。このような場合、歯周病に対する本人の自覚は低く予防行動の実践に繋がりにくいため、今後それらの歯の状況が悪化して喪失することがないようにプラークコントロールや歯石除去などの対応が求められる。

## V おわりに

平成16年度の受診率は4.29%（15,052人中646人）で特に40～60歳の働いている男性の受診者が少なかった。受診率の向上を図るために様々な周知の方法を検討していく必要がある。また乳幼児歯科に比べて成人歯科に関するデータは少ないため、今後もデータを集積して実態把握や研究分析に努め、今後の成人歯科保健事業に寄与したい。

宮崎県は「健康みやざき行動計画」において「(CPI個人コードが3以上の)進行した歯周炎を持つ人の割合」を2010年までに40歳で30%（本市：61.9%）、50歳で40%（本市：66.5%）に減らすことを目標としている。目標達成に向けて健康教育などにより、歯周病予防に関する啓発を行っていききたい。

### 参考・引用文献

- 1) 安井利一ほか：日本歯科評論 587：189～197, 1991
- 2) 北村中也ほか：鶴見歯学 10(3)：419～423, 1984